

2023年3月期 第1四半期

# 決算概要

長瀬産業株式会社

2022年8月4日

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 通期業績見通し	P14~P15
■ 株主還元状況	P16

# 連結損益計算書

## ▶ 売上総利益

- ・生活関連が大きく伸長し、機能素材、電子・エネルギーも好調であったことから全体として売上総利益は四半期での過去最高値を更新

## ▶ 営業利益

- ・物流費の高騰や活動の増加に伴い販売費及び一般管理費が増加したが、売上総利益の増加が上回り営業利益も四半期での過去最高値を更新

## ▶ 四半期純利益

- ・経常利益までの増益を受けて、四半期純利益も増益

(単位:億円)

	21/06	22/06	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
<b>売上高</b>	1,843	2,195	+ 351	119%	—	—
<b>売上総利益</b>	345	399	+ 53	115%	1,590	25%
<b>&lt;利益率&gt;</b>	18.8%	18.2%	△0.6pt	—	—	—
<b>販売費及び一般管理費</b>	248	290	+ 41	117%	1,210	—
<b>営業利益</b>	97	108	+ 11	112%	380	29%
<b>経常利益</b>	106	115	+ 8	108%	390	30%
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	71	79	+ 7	111%	285	28%
US\$レート (期中平均)	@ 109.5	@ 129.7	@ 20.2 円安		@120.0	
RMBレート (期中平均)	@ 16.9	@ 19.6	@ 2.7 円安		@18.5	

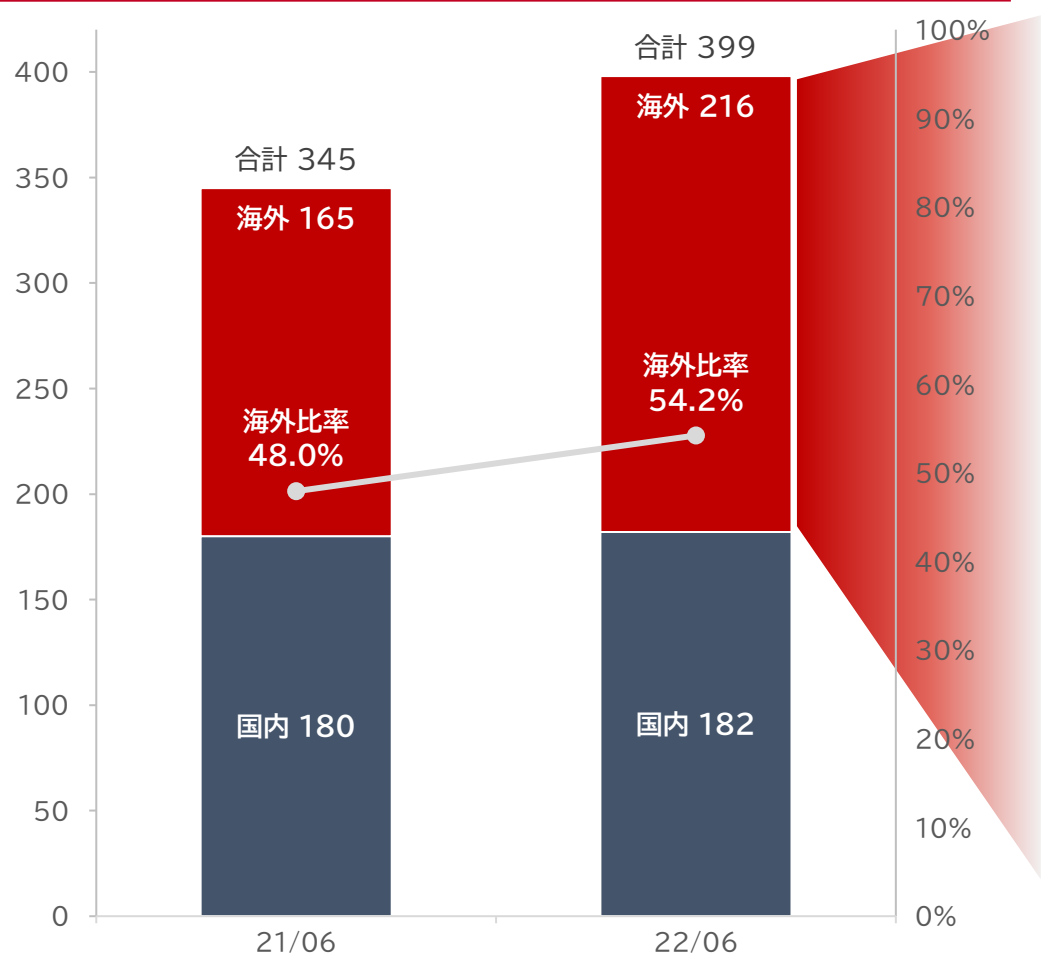
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 21/06 △ 585億円 22/06 △ 651億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+24億円 【営業利益】+8億円

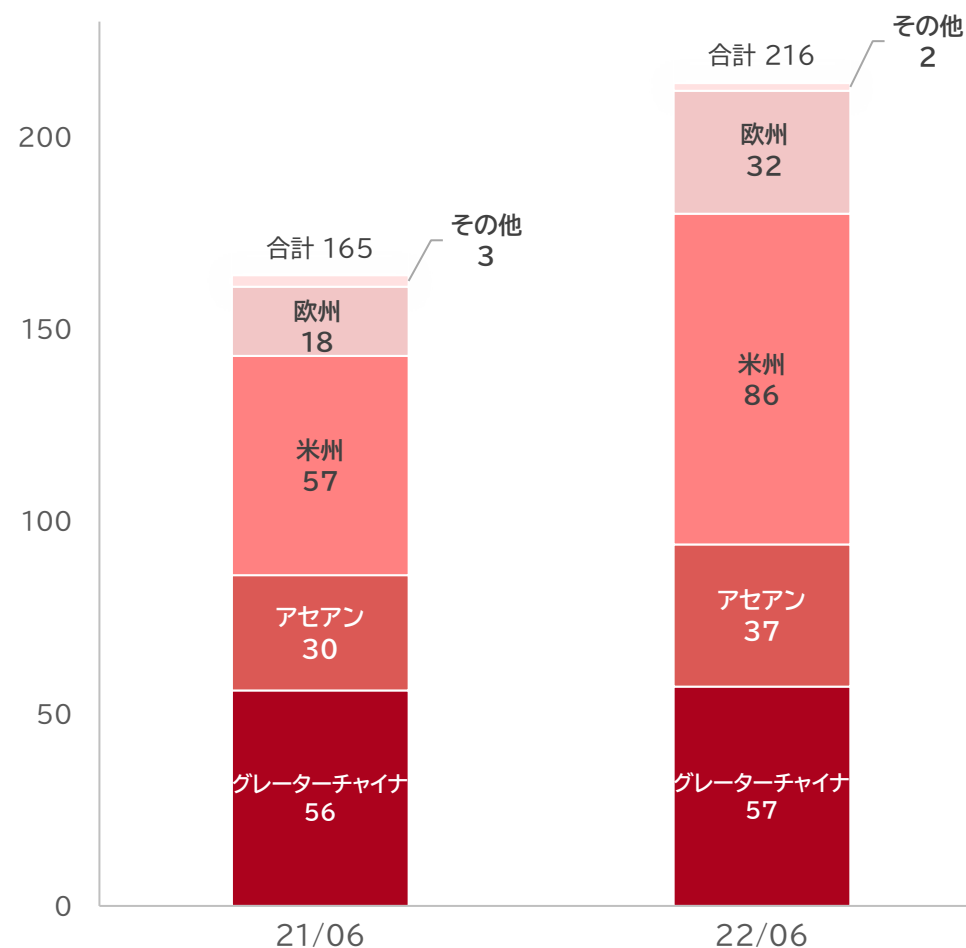
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内は半導体関連ビジネスへの精密加工関連、エレクトロニクスケミカルの販売増加により増益
- ▶ 海外はPrinovaグループの好調により米州及び欧州が大幅な増益、グレーターチャイナはロックダウンがあったが円安による影響もあり増益

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）

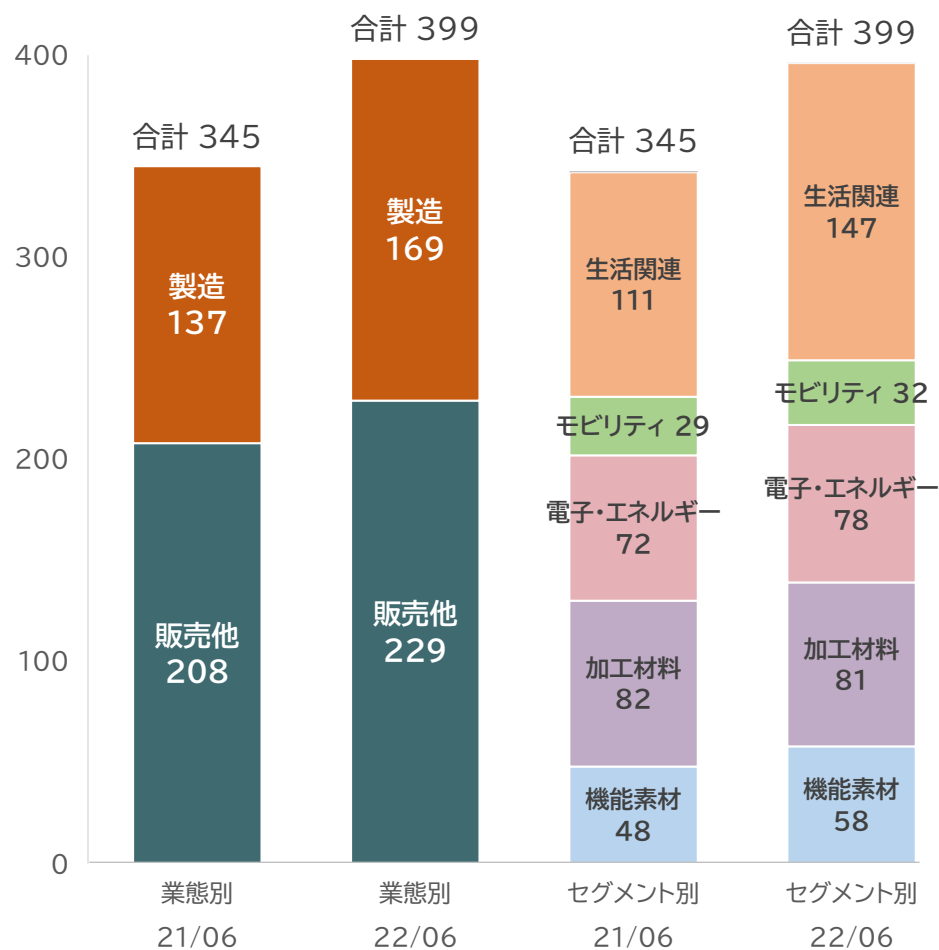


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

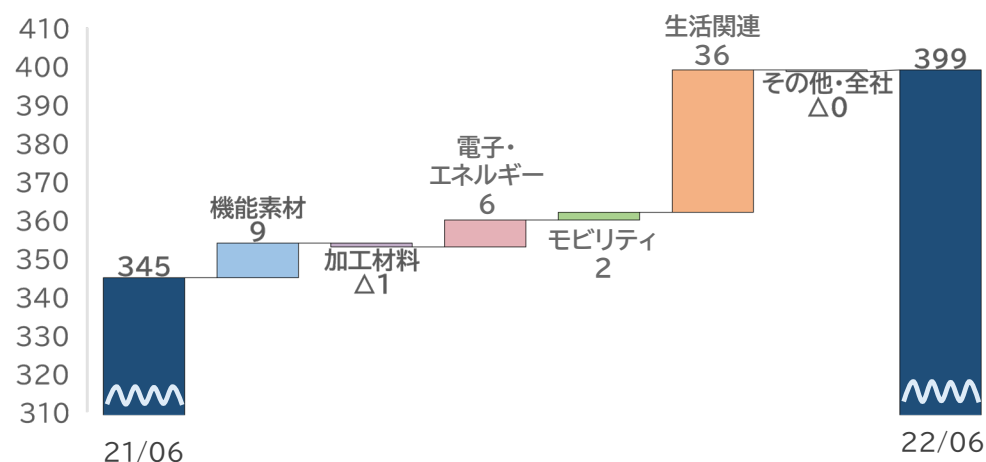
# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は半導体関連等の電子業界向けのエレクトロニクスケミカルの販売が増加
- ▶ 加工材料は樹脂販売が円安による影響もあったが、前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動等により収益性が低下
- ▶ 電子・エネルギーは半導体用途の精密加工関連の販売が増加
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおけるニュートリション素材の販売、製造加工が好調

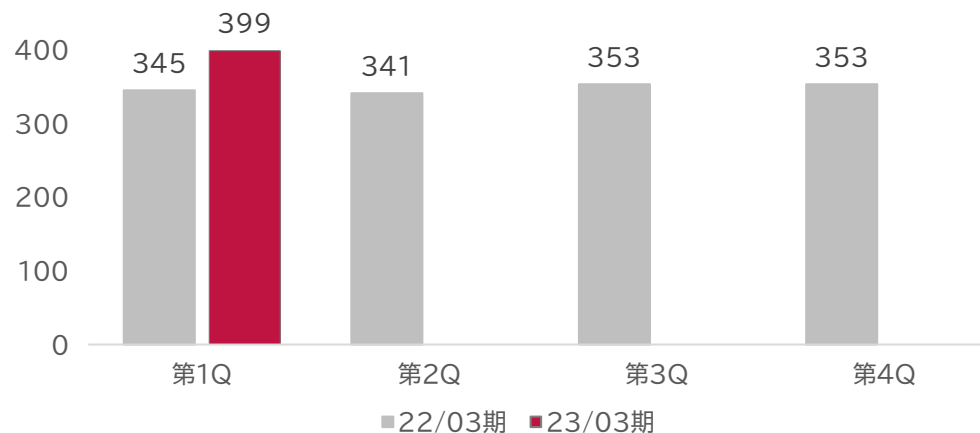
## 業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



## セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



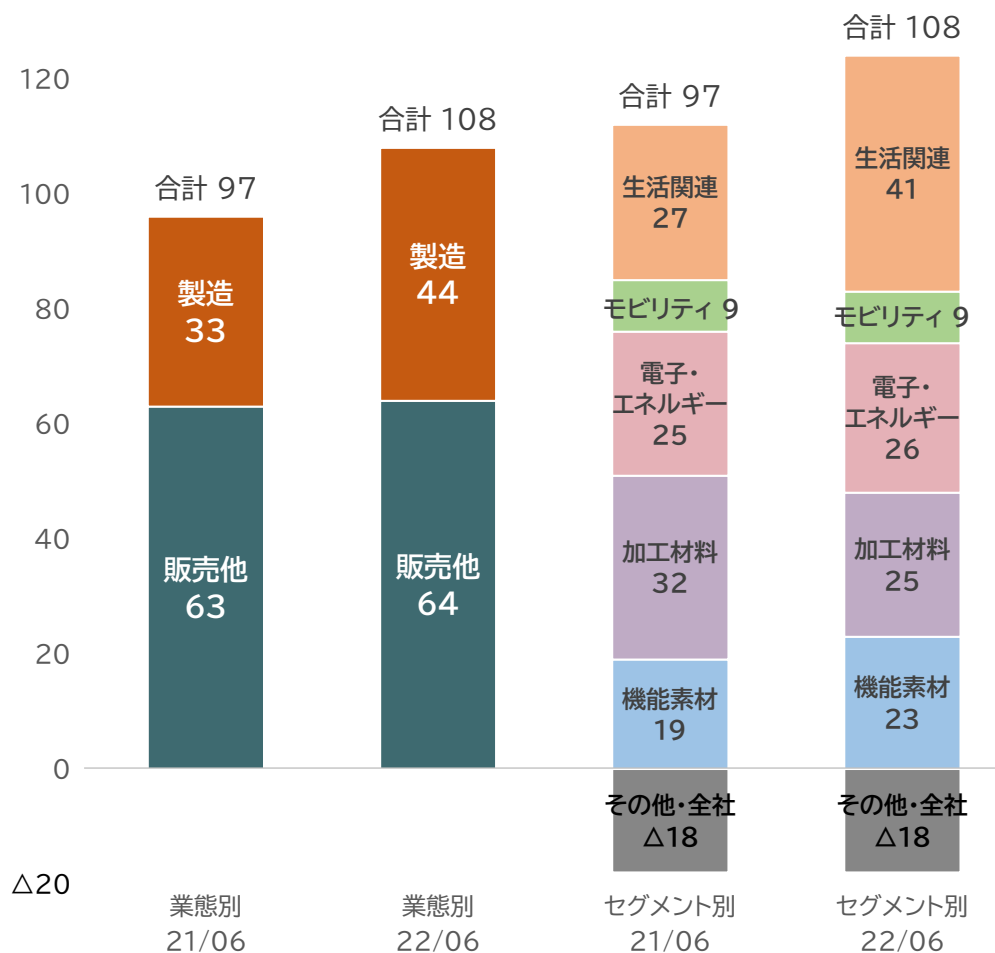
## 売上総利益 四半期推移 (億円)



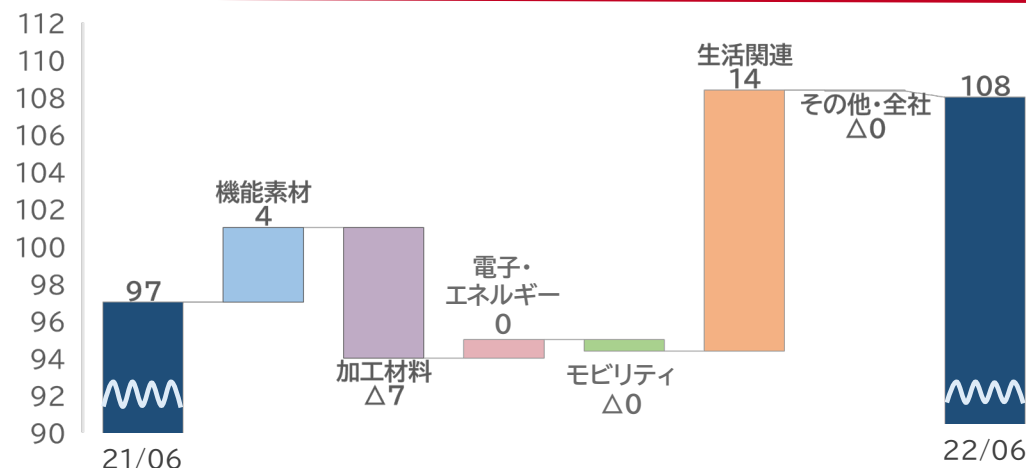
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 物流費の高騰や活動の増加に伴う販売費及び一般管理費の増加もあったが、売上総利益の増加が上回り四半期の過去最高値を更新
- ▶ 加工材料は前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動や販売費及び一般管理費の増加等もあり、減益
- ▶ 生活関連はPrinovaグループのニュートリション素材の販売事業が好調に推移し、大幅な増益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

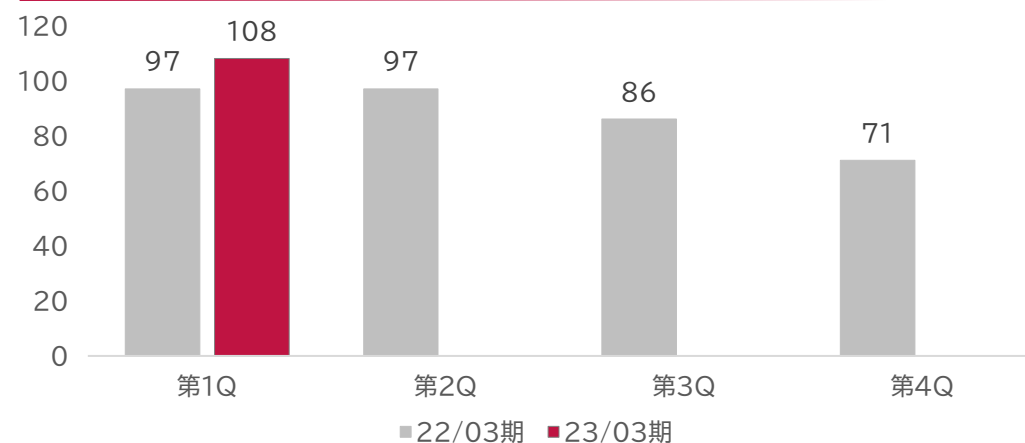
### 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



### セグメント別 営業利益 増減 (億円)



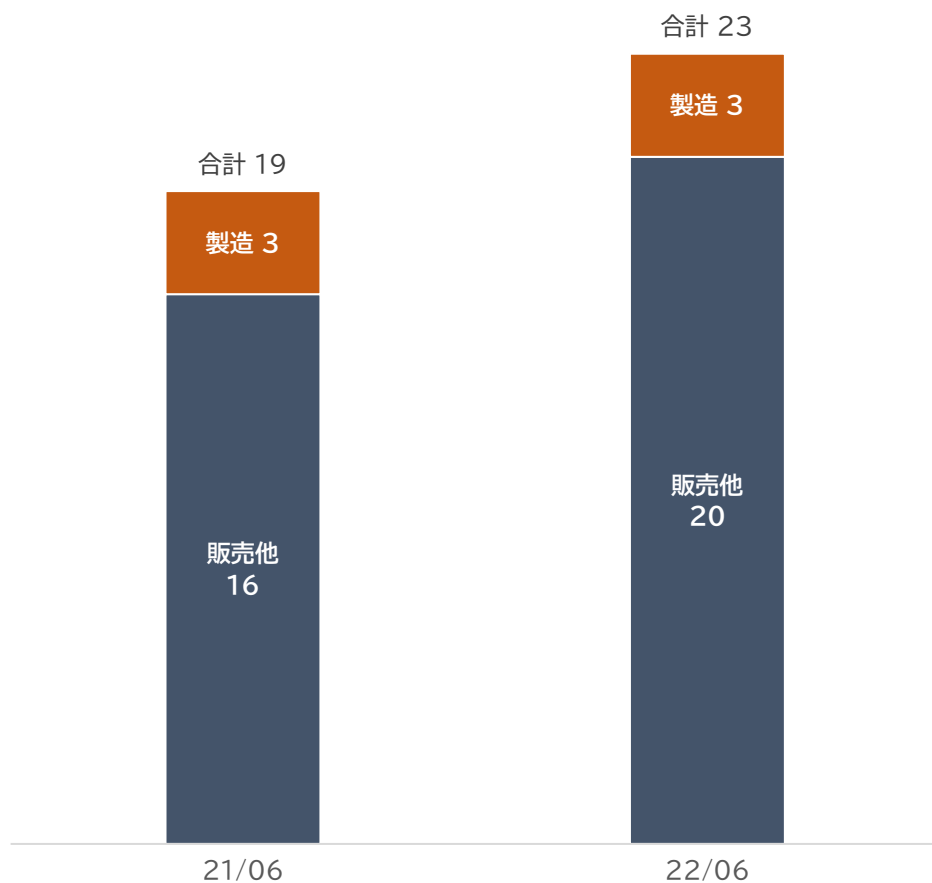
### 営業利益 四半期推移 (億円)



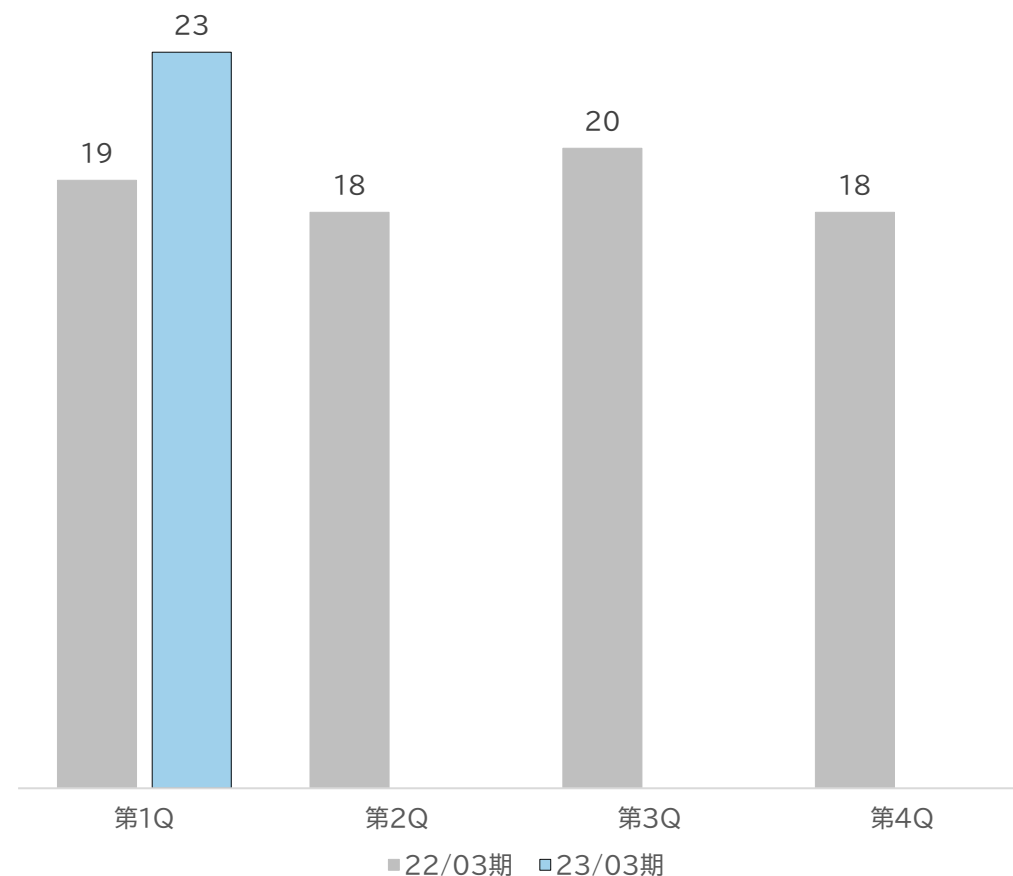
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 市況の高騰や円安による影響もあり、塗料・ウレタン原料の販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けのエレクトロニクスケミカルの販売、加工油剤・樹脂関連の販売が増加
- ▶ 半導体関連業界を中心とした堅調な需要、市況や円安による影響等もあり前年同期と比べて増益

業態別 営業利益 (億円)



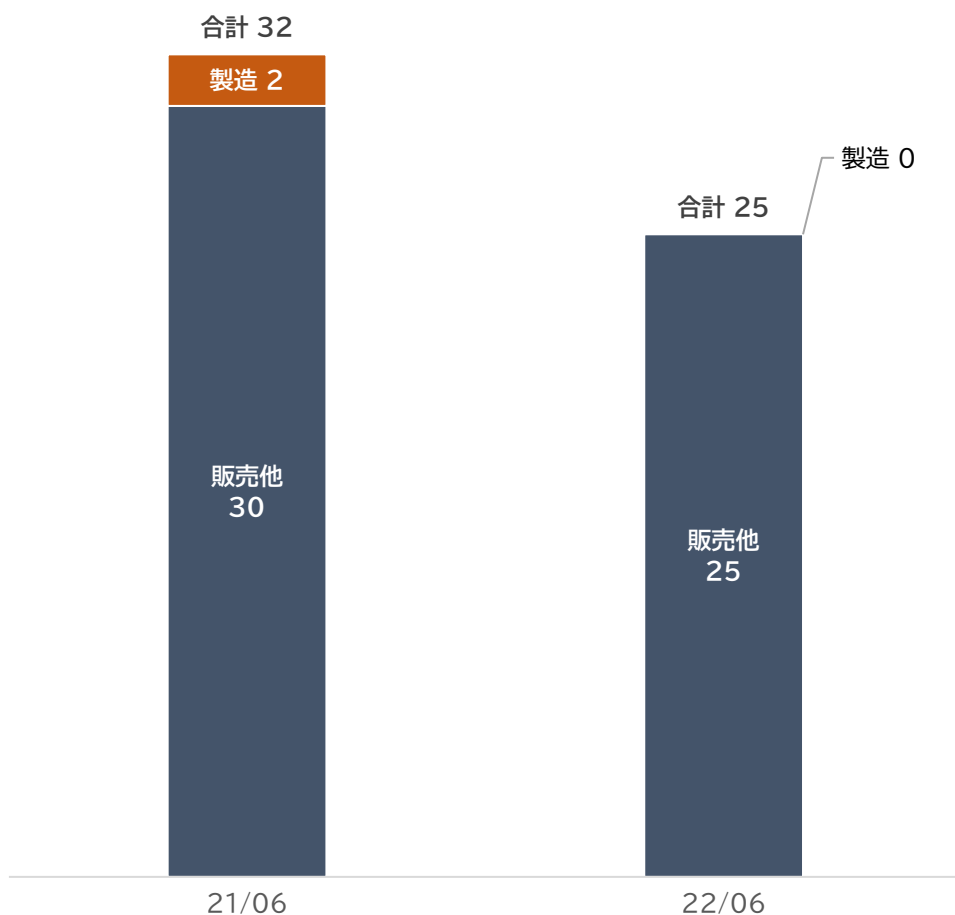
営業利益 四半期推移 (億円)



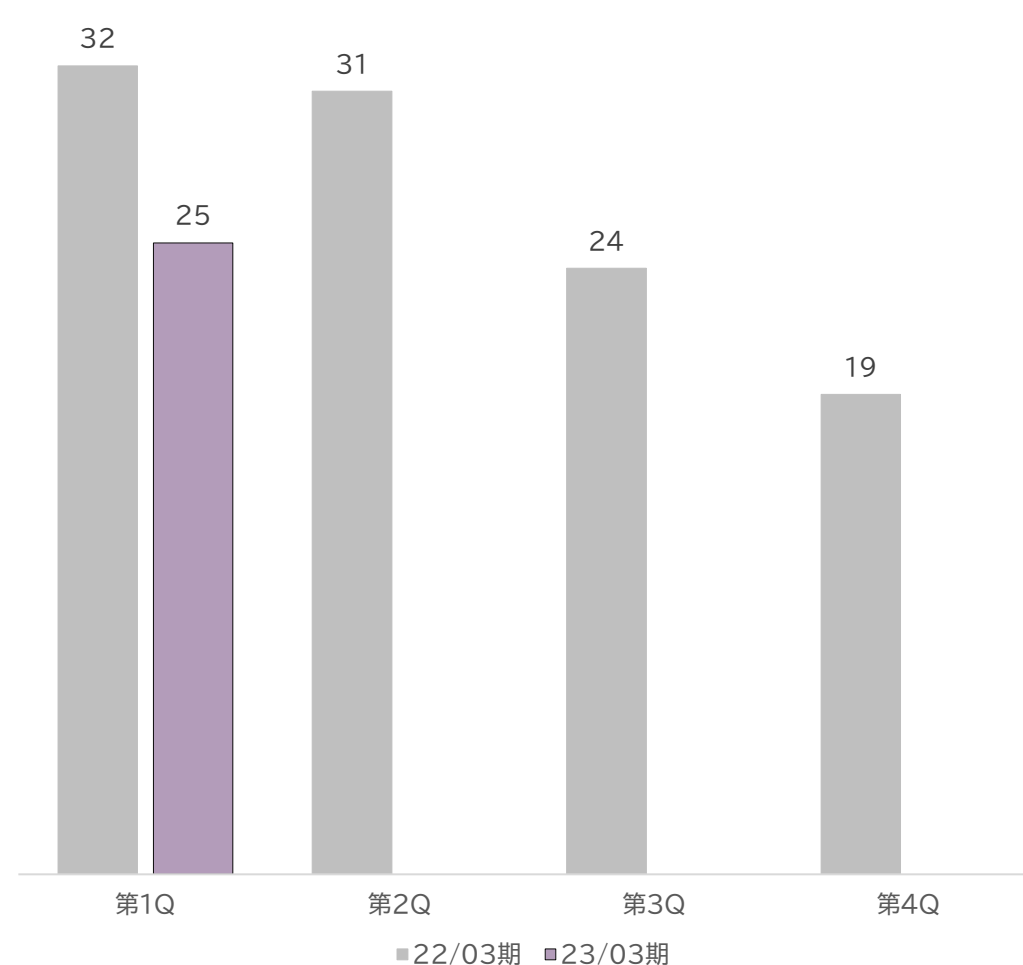
# セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界等への樹脂販売は円安による影響もあったが、前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動等もあり収益性が低下
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は需要の低迷により不調
- ▶ 樹脂販売、製造ビジネスにおける収益性の低下、販売費及び一般管理費の増加等により前年同期と比べて減益

### 業態別 営業利益 (億円)



### 営業利益 四半期推移 (億円)

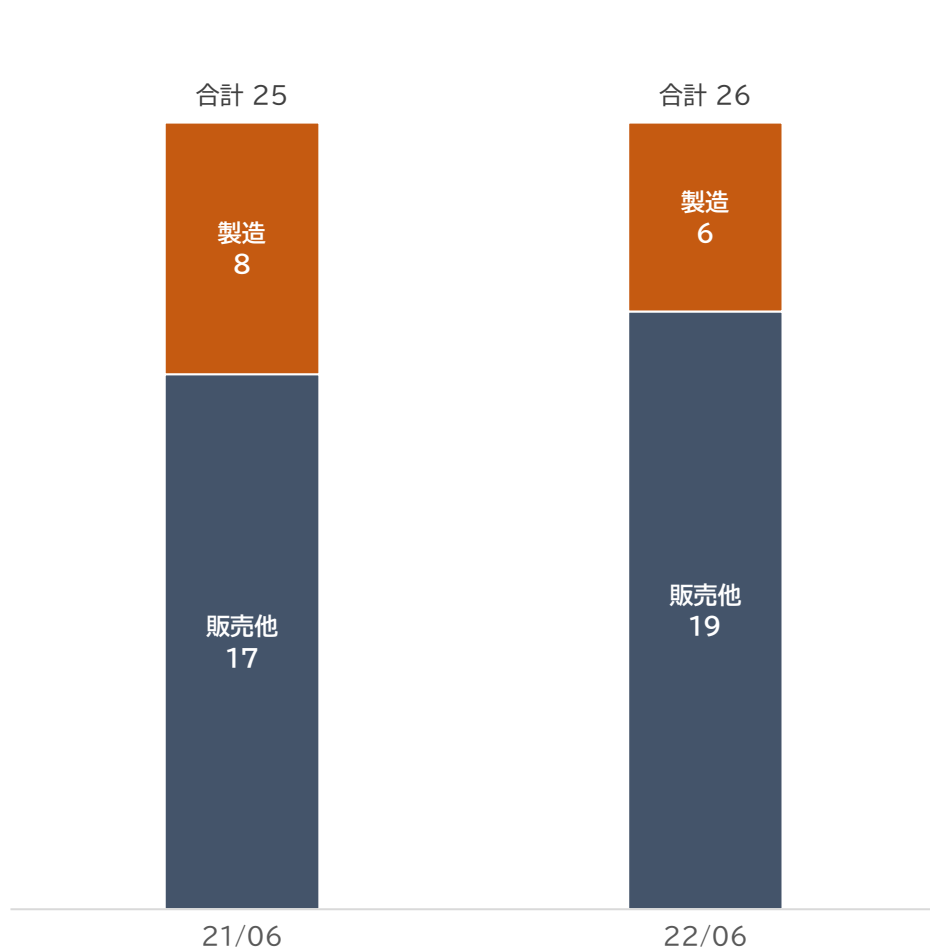




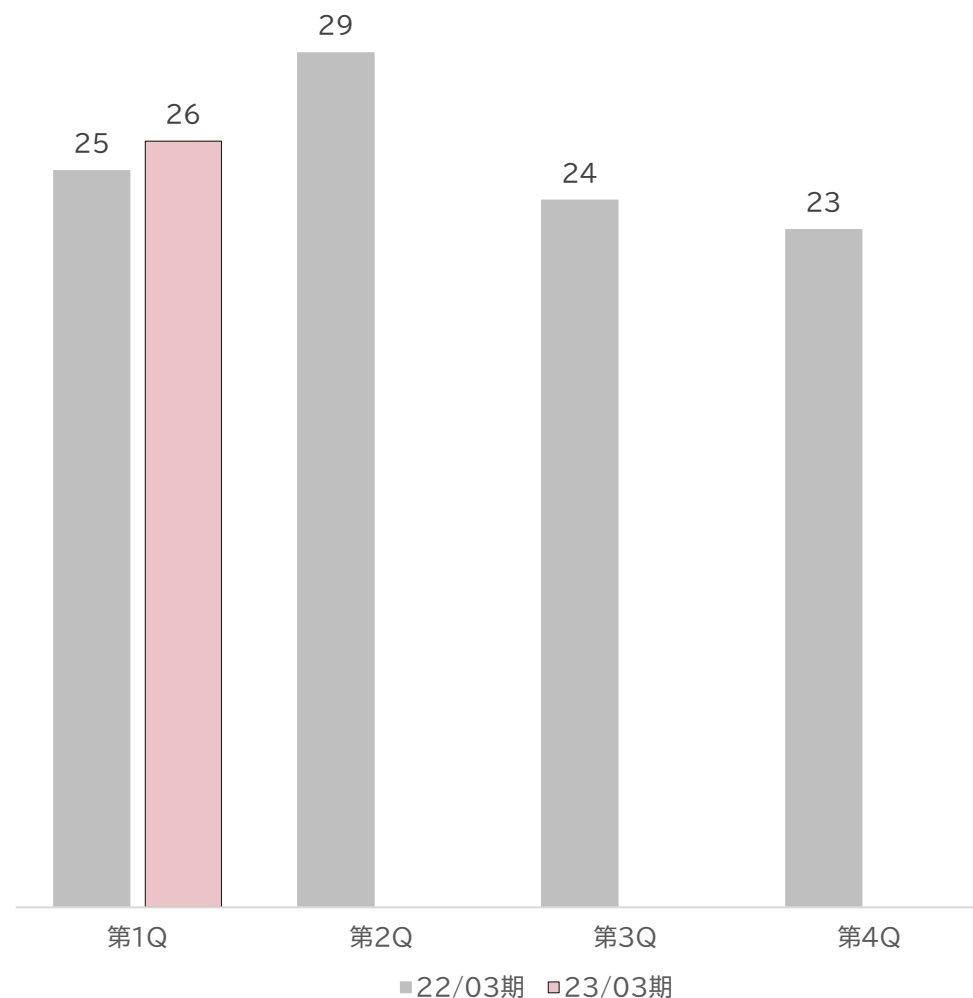
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体用途向けの精密加工関連の販売が増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連の販売は半導体用途向けは好調だったが、モバイル機器向けが低調
- ▶ 次世代通信関連ビジネスの体制を整備、開発費用先行だが中長期的な成長を目指す
- ▶ 半導体関連ビジネスの好調が継続し、前年同期と比べて増益

### 業態別 営業利益 (億円)



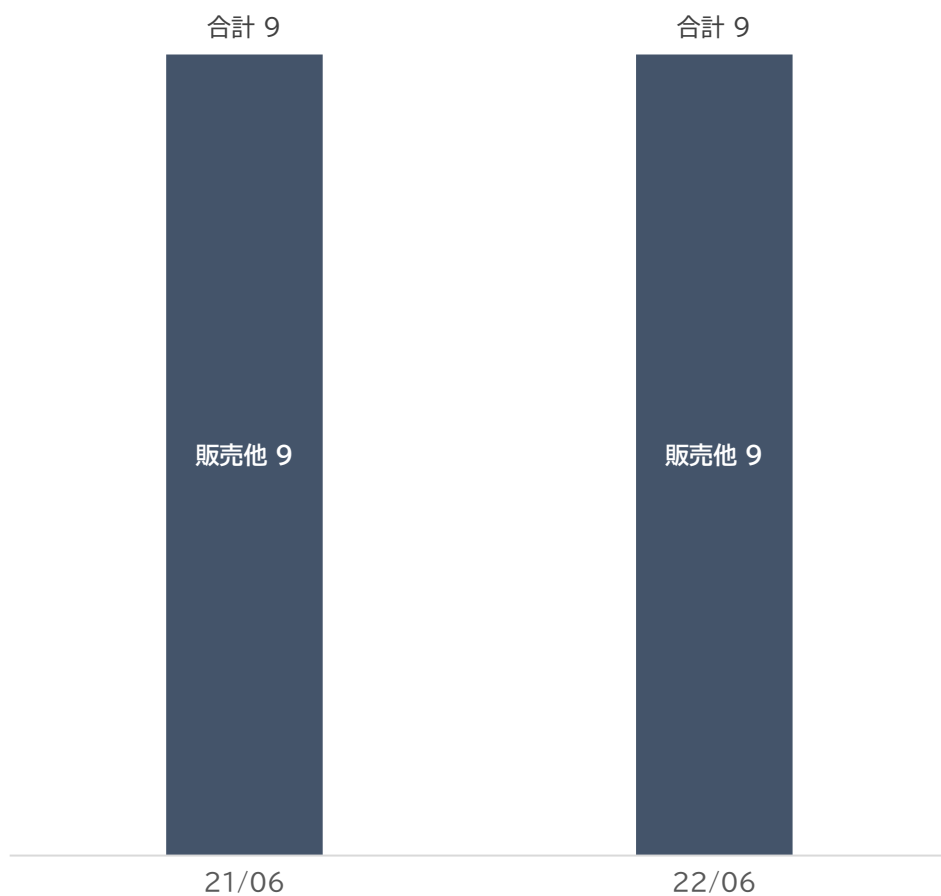
### 営業利益 四半期推移 (億円)



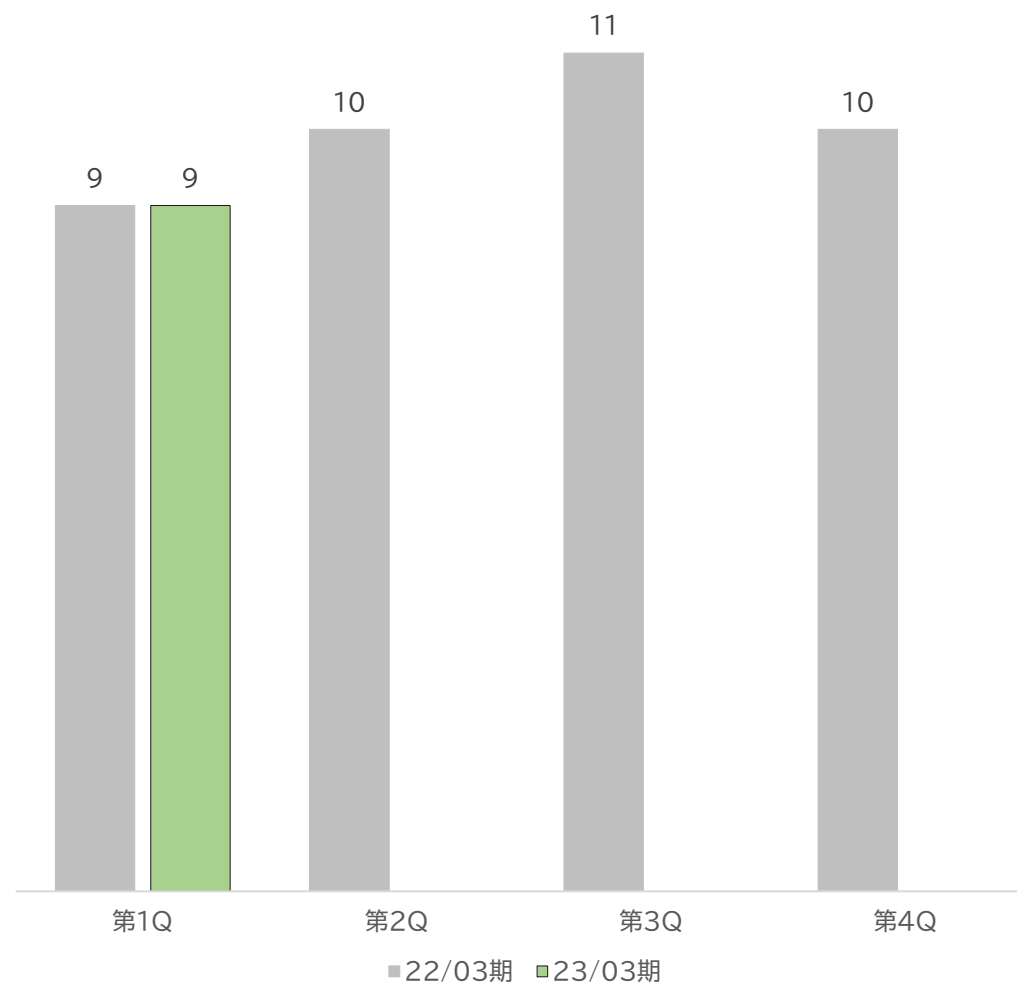
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は自動車生産台数の減少はあったが円安による影響等もあり増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 売上総利益は増加したが、販売費及び一般管理費の増加もあり前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益 (億円)



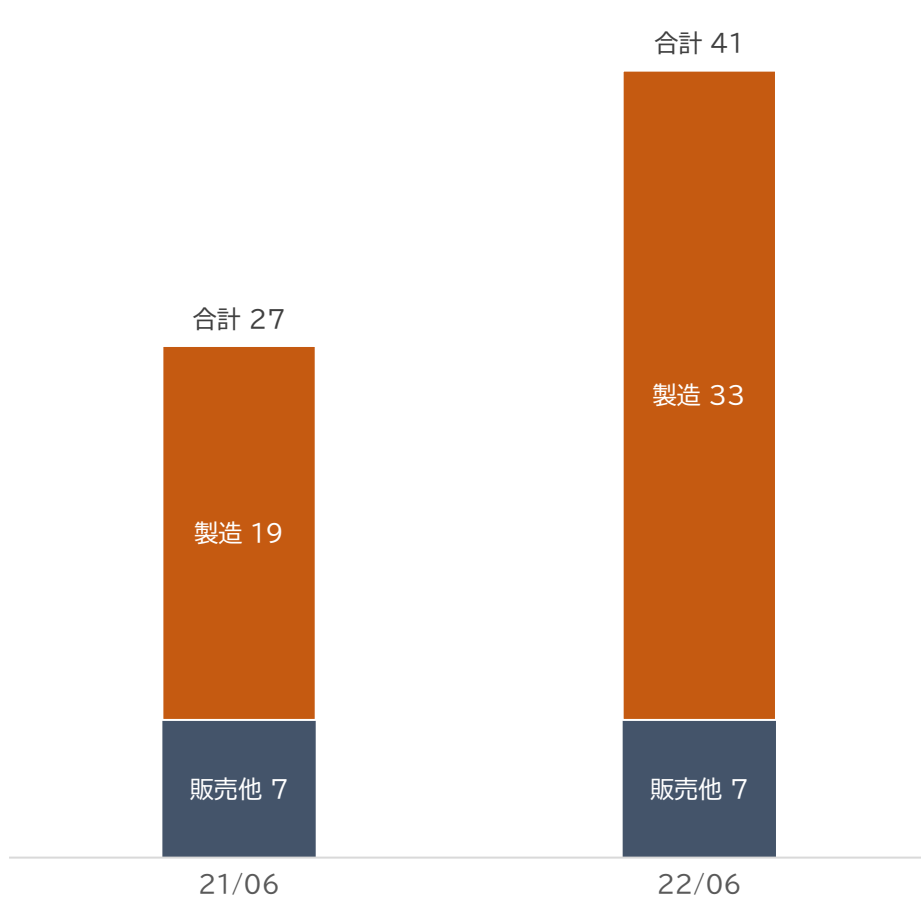
## 営業利益 四半期推移 (億円)



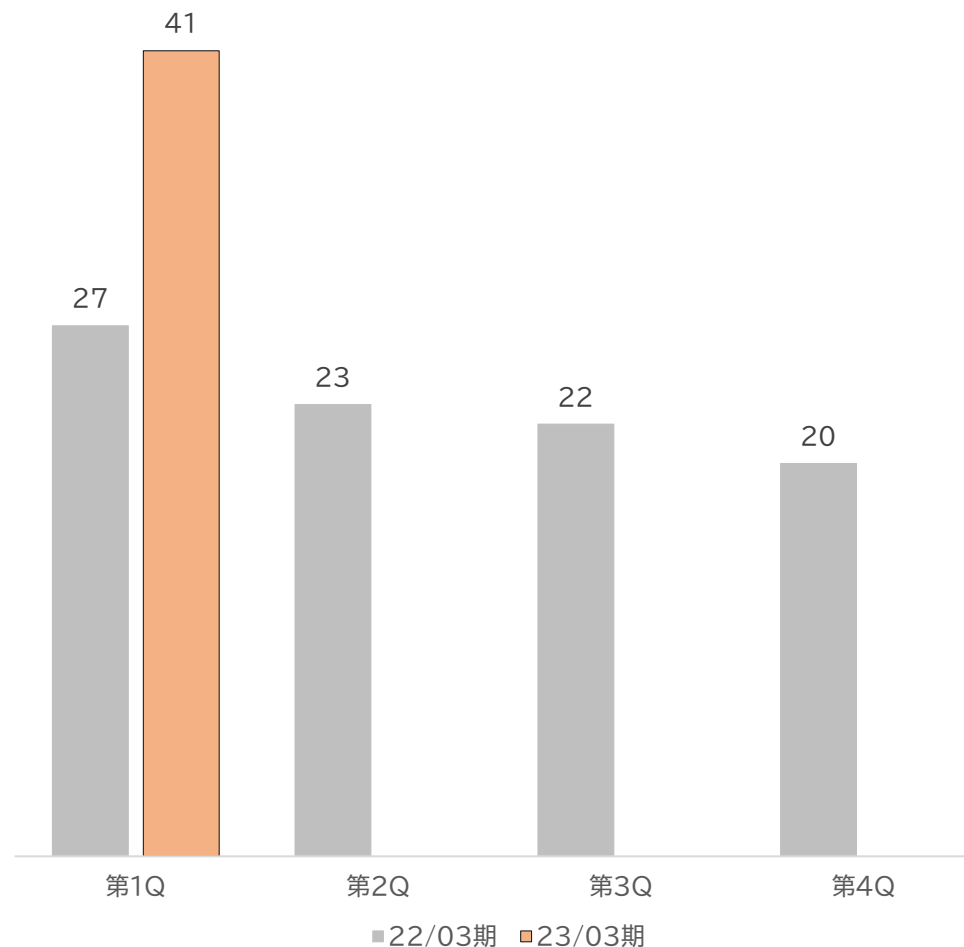
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループのニュートリション関連の素材販売が好調に推移し、収益性も向上
- ▶ トレハ®を中心とした食品素材や医薬品原料の販売は増加したが、AA2G®を中心とした香粧品素材は主に海外での需要減少を受けて販売が減少
- ▶ Prinovaグループのビジネス好調、円安による影響等もあり前年同期と比べて大幅な増益

### 業態別 営業利益 (億円)



### 営業利益 四半期推移 (億円)



# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：半導体向けは好調も、モバイル機器向けの変性エポキシ樹脂関連の販売が低調であったこと等から、減益
- ▶ 林原：香粧品素材AA2G®の販売減少や、原料価格、エネルギー価格の高騰による食品素材トレハ®の収益性低下もあり、減益
- ▶ Prinovaグループ：需要の拡大によるニュートリション関連の素材販売の増加、収益性の向上等から、増益

(単位:億円)

		21/06	22/06	増減額	前年同期比
ナガセケムテックス	売上高	72	72	0	101%
	売上総利益	24	22	△2	91%
	営業利益	12	8	△3	70%
林原	売上高	66	71	4	106%
	売上総利益	28	28	△0	98%
	営業利益	13	11	△1	88%
	のれん等償却費	7	7	-	100%
	償却費負担後営業利益	5	3	△1	72%
Prinova グループ	売上高	273	459	186	168%
	売上総利益	53	85	32	161%
	営業利益	18	33	14	180%
	のれん等償却費	4	5	0	110%
	償却費負担後営業利益	13	28	14	204%

# 連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：全般的な業績好調に伴い運転資本が増加
- ▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、四半期純利益の計上、円安による為替換算調整勘定の増加等もあり増加
- ▶ NET D/Eレシオ：運転資本増加による資金需要により短期借入が増加し0.41倍に上昇

(単位:億円)

	2022年3月末	2022年6月末	増減額	主な増減
流動資産	5,142	5,527	385	
（現金及び現金同等物）	542	521	△20	
（売掛債権）	2,898	3,038	139	
（棚卸資産）	1,575	1,774	198	
固定資産	2,254	2,292	37	
（投資有価証券）	756	737	△18	
資産の部合計	7,397	7,820	422	
流動負債	3,078	3,265	187	短期借入金・CP+303、1年内償還社債△100
（買掛債務）	1,490	1,518	28	
固定負債	767	890	122	社債+100
負債の部合計	3,846	4,156	309	
株主資本	2,988	3,010	22	
その他の包括利益累計額	454	535	81	為替換算調整勘定+93、有価証券評価差額△15
非支配株主持分	108	117	8	
純資産の部合計	3,550	3,663	112	
運転資本	2,983	3,294	310	
自己資本比率	46.5%	45.4%	△1.2%	
NET D/Eレシオ	0.33	0.41	0.09	

# 2023年3月期 通期業績見通し(変更無し)

- ▶ 中期経営計画 **ACE 2.0** における注力領域である半導体、フード関連事業は引続きシェア拡大、好調維持
- ▶ 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は各国での規制緩和の流れを受けて限定的と見込む
- ▶ 原油価格および関連するケミカル市況の高騰やサプライチェーンの混乱は一定程度継続する見込み
- ▶ ロシア・ウクライナ向けの直接的なビジネスは極僅かであり、影響は限定的
- ▶ 不透明な外部環境要因も多いが、現時点では2期連続で最高益を更新する見込み

(単位:億円)

	22/03 実績	23/03 見通し	増減額	前期比
<b>売上総利益</b>	1,394	1,590	195	114%
<b>販売費及び 一般管理費</b>	1,042	1,210	167	116%
<b>営業利益</b>	352	380	27	108%
<b>経常利益</b>	364	390	25	107%
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	259	285	25	110%
US\$レート (期中平均)	@ 112.4	@ 120.0		
RMBレート (期中平均)	@ 17.5	@ 18.5		

※レートが1円変動した場合の営業利益への影響額:US\$ 約1億円、RMB 約4億円

# 2023年3月期 セグメント別業績見通し(変更無し)

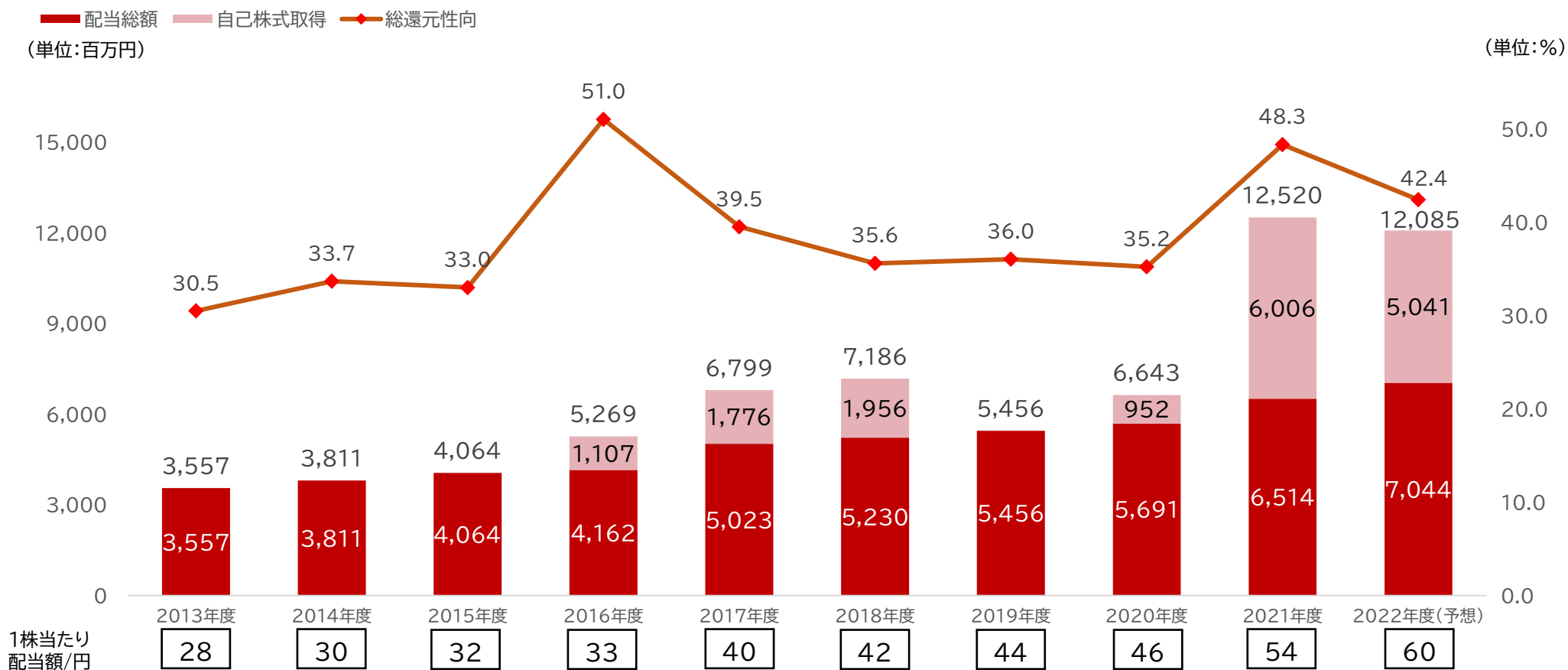
- ▶ 機能素材、エレクトロニクスを中心とする半導体関連ビジネスは通信用途等を中心に強い需要が継続し好調
- ▶ 加工材料、モビリティの樹脂ビジネスは樹脂市況の高止まりにより利益率が正常化するが、需要の増加に加え高機能品の販売拡大により好調
- ▶ 生活関連のPrinovaグループにおけるニュートリション関連ビジネスは欧米における消費拡大、健康意識の高まり等を受けて更なる成長を見込む
- ▶ その他・全社は事務所移転に伴うコスト増加等を見込む

(単位:億円)

		22/03 実績	23/03 見通し	増減額	前期比
機能素材	売上総利益	198	221	22	112%
	営業利益	78	83	4	106%
加工材料	売上総利益	323	343	19	106%
	営業利益	108	117	8	108%
電子・エネルギー	売上総利益	297	325	27	109%
	営業利益	102	115	12	112%
モビリティ	売上総利益	127	142	14	112%
	営業利益	41	44	2	106%
生活関連	売上総利益	447	557	109	124%
	営業利益	94	112	17	119%
その他・全社	売上総利益	1	2	0	168%
	営業利益	△ 72	△ 91	△ 18	—
連結合計	売上総利益	1,394	1,590	195	114%
	営業利益	352	380	27	108%

# 株主還元状況

- ▶ 2022年度の1株当たり配当金は中間30円、期末30円の年間60円を予定(13期連続増配見通し)
- ▶ 2022年2月に決議した60億円の自己株式取得は予定通り進捗  
(当第1四半期において18億円取得し、2022年6月末時点での取得累計額は28億円)



※ 2022年度の期末配当金は、2023年6月開催予定の第108回定時株主総会に附議予定です。





<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2022年8月4日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。